



Flex-10

ユーザーガイド





ナッシュビル - USA

Harrison Audio LLC のウェブサイト : www.harrisonaudio.com

その他の製品名および商標は、それぞれの所有者に帰属し、ここにその旨を明記します。

本出版物のいかなる部分も、Harrison Audio LLC (695 President Place STE 102, Smyrna TN. 37167 USA) の書面による許可なく、機械的または電子的を問わず、いかなる形式や手段によっても複製することはできません。

研究開発は継続的なプロセスであるため、Harrison Audio LLC は、予告や義務を負うことなく、本書に記載されている機能や仕様を変更する権利を保持します。

Harrison Audio LLC は、本マニュアルの誤りまたは記載漏れに起因して直接または間接的に生じた損失または損害について、一切の責任を負いません。

すべての説明をよくお読みになり、特に安全に関する警告に十分ご注意ください。

2026年8月 バージョン v2.0

目次

概要	3
機能	3
インストール	4
開梱	4
ハードウェアの概要	5
フロントパネル	5
背面パネル	6
チュートリアル	7
前面パネルの操作部	7
入力チャンネルセクション	7
マスターセクション	9
仕様	11
重量および外形寸法	12
オーディオドライバー	12
DAWのバッファサイズ	13
サンプリングレート	14
安全上の注意	15

概要

はじめに

Harrison Flex-10は、Harrisonの技術の中核に据えたUSB/ADATオーディオインターフェースです。**Flex-10**は、専用トランスを搭載した高性能なHarrison製マイクプリアンプ技術を2チャンネル分備えており、入力信号をサチュレーション状態で駆動させると同時に、出力レベルを調整する柔軟性を提供します。この独自の機能は、オン/オフを切り替えることが可能です。

各プリアンプ段には、伝説的なハリソンのアナログ・ハイパスおよびローパス・フィルターが搭載されており、サチュレーション前の段階で高品質かつ最大限のフィルタリングを実現します。背面には独立したライン入力が、前面パネルにはHi-Z楽器入力が用意されているほか、各チャンネルにはバランス型インサートも備わっています。

Flex-10のマスターセクションには、伝統的な外観、操作感、機能を備えた大型のアナログVU出力メーターが搭載されています。メイン出力とオルタネート出力には、録音中にセンドと再生音のミックスを聴くためのモニターミックス（または「ブレンダー」）機能が備わっています。フロントパネルからアクセス可能なヘッドフォン出力も2系統用意されています。

特長

- 2つのハリソン製高性能マイクプリアンプ
- 2系統のHi-Z楽器入力
- 2系統のラインレベル入力
- H-Driveトランス×2
- クラシック・ハイパス+ローパス・フィルター
- チャンネルごとのインサートポイント
- 切り替え可能なデュアル・ライン出力
- デュアル・ヘッドフォン出力
- 8チャンネルの双方向ADAT入出力
- USB-C 2入力／2出力
- 次世代32ビット192 kHzコンバーター
- MIDI入出力
- macOSおよびWindowsに対応

セットアップ

開梱

本製品は丁寧に梱包されており、箱の中には以下のアイテムが入っています。

- Flex-10
- ケーブル付き電源アダプタ
- 安全マニュアル

万が一、本機を修理に出す必要が生じた場合に備え、元の箱や梱包材は保管しておくことをお勧めします。

熱と換気

Flex-10 は、机などの上に設置するように設計された卓上型の機器です。Flex-10 は、熱を自然に放散することができます。

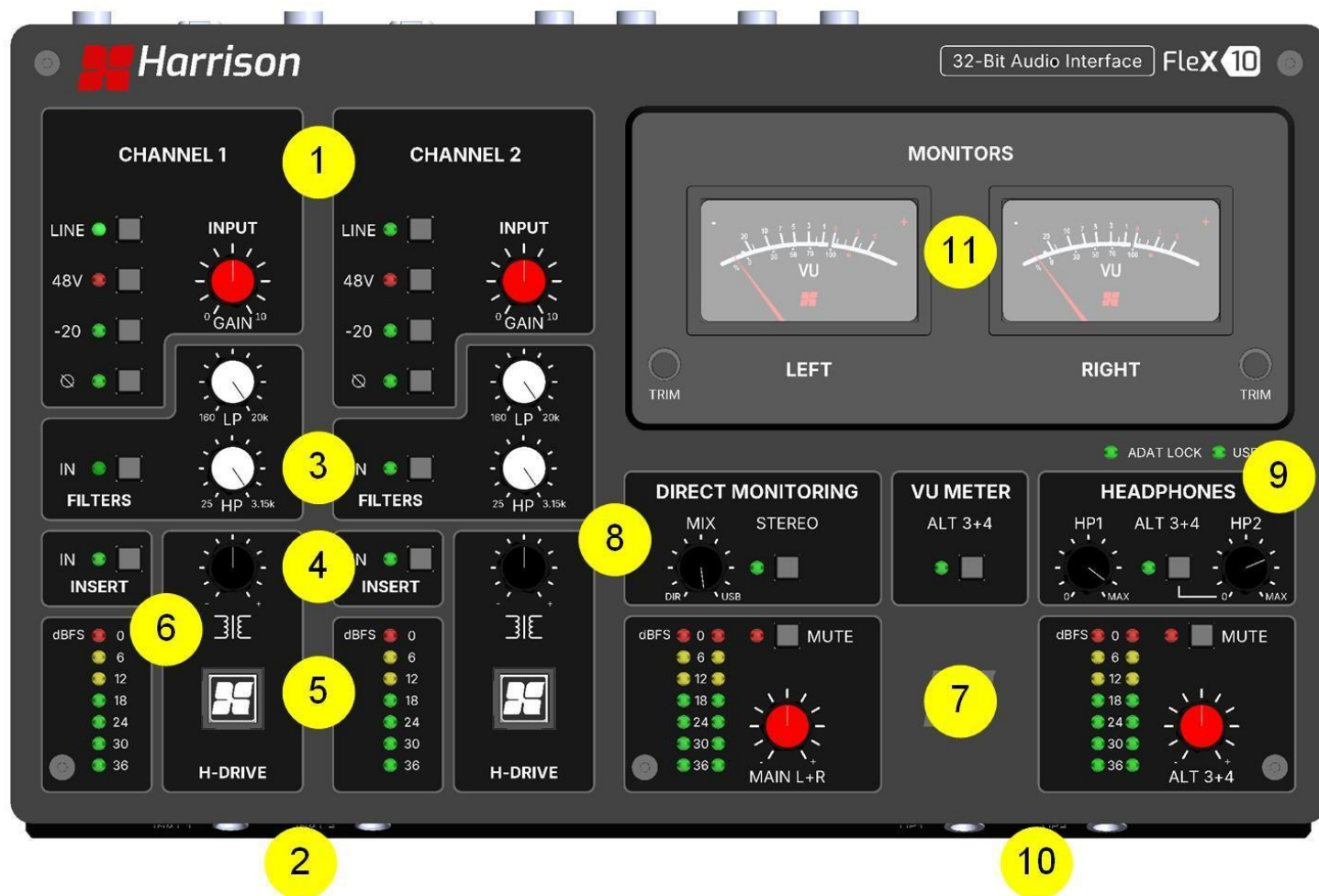
安全に関する注意事項

Flex-10 をご使用になる前に、箱に入っている安全シートに記載されている安全に関する注意事項をお読みください。この情報は、本ユーザーガイドの「付録」セクションにも掲載されています。

ハードウェア の概要

このセクションでは、Flex-10のハードウェアの概要を説明します。各コントロールの詳細については、チュートリアルセクションで解説しています。

フロントパネル



1 - 2チャンネルのハリソンマイク入力およびバランスライン入力。マイク入力には48Vおよび-20 Padを備え、極性切り替えスイッチ付き。

2 - チャンネルごとのフロントパネル・インストゥルメント入力。

3 - 各チャンネルに、クラシックなハリソン・ハイパスおよびローパス・フィルターを搭載。

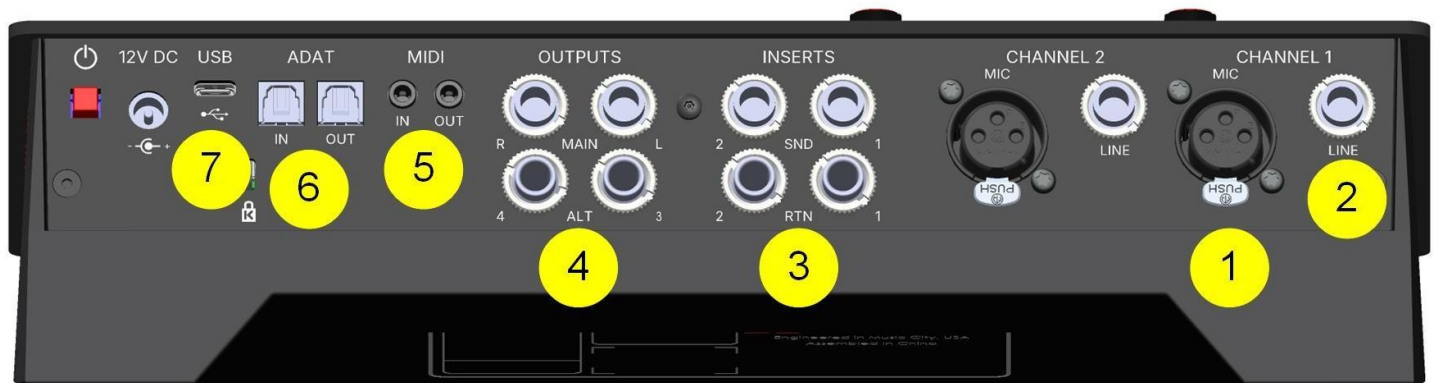
4 - チャンネルごとのバランス型インサート。

5 - チャンネルごとのLED入力メーター。

6 - チャンネルごとにH-DRIVEトランス機能を搭載。

- 7 - MAIN L-Rおよびオルタネート3-4のステレオ出力ボリュームおよび MUTEスイッチ。
- 8 - ダイレクト出力とDAWリターンをミックスできるダイレクトモニタリングセクション。
- 9 - ヘッドフォン出力ボリューム×2。
- 10 - フロントパネルにヘッドフォンジャックを装備。
- 11 - アナログVU出力メーター。

リアパネルの接続端子

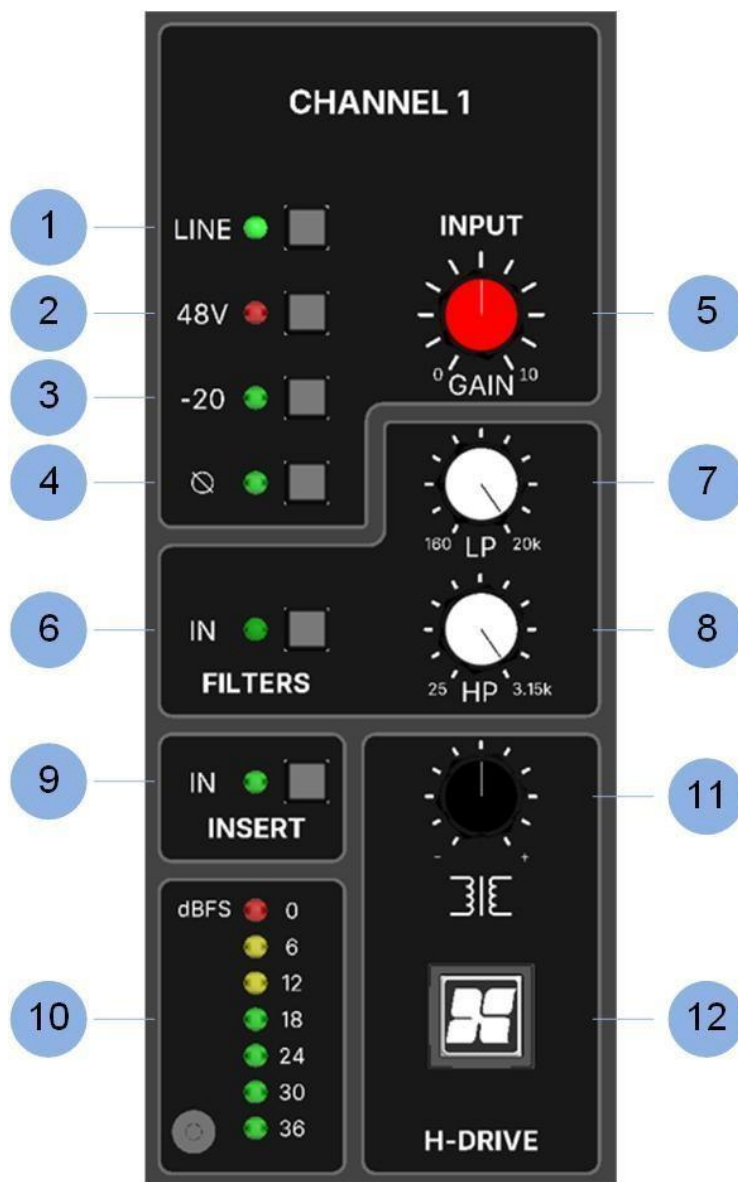


- 1 - マイク入力 (XLR端子)
- 2 - バランス・ライン入力 (TRS端子)
- 3 - バランス・インサート (TRS)
- 4 - バランスMAINおよびALT出力 (TRS)
- 5 - MIDI入出力
- 6 - ADAT入出力
- 7 - USB-C

チュートリアル

フロントパネルのコントロール

入力チャンネルセクション



1 - LINE

背面パネルのTRSコネクタ経由で、LINE入力をソースとして有効にします。

2 - 48V

32Classic MSのマイクプリアンプ用に48Vのファンタム電源を有効にします。+48Vのファンタム電源は、一部のコンデンサーマイクやアクティブ型リボンマイクに必要です。ダイナミック型またはパッシブ型リボンマイクは、動作にファンタム電源を必要とせず、場合によってはマイクに損傷を与える可能性があります。不明な場合は、マイクを接続する前に必ず+48Vが無効になっていることを確認してください。

3 - (-20)

マイクプリアンプの20dB固定パッドを有効にします。

4 - POLARITY (Ø)

32Classic MSユニットの選択された入力ソースの極性を反転させます。ドラムなどのマルチマイクで録音する場合、各マイクが音波を異なるタイミングで受信することで位相の干渉が生じることがあります。特定のチャンネルの極性（一般に「位相」と呼ばれる）を反転させることで、こうした干渉を解消できる場合があります。

5 - GAIN

マイクプリアンプの入力ゲインを無段階に調整します。

6 - IN (FILTERS)

信号経路へのハイパスフィルターおよびローパスフィルターのオン/オフを切り替えます。

7 - ハイパスフィルター・ポテンショメータ

ハイパスフィルターの周波数を25 (Hz) から3.15 (kHz) まで可変で制御します。

8 - ローパスフィルター・ポテンショメータ

ローパスフィルターの周波数を160 (Hz) から20 (kHz) まで可変制御します。

9 - INS

Flex-10チャンネルストリップに他のアウトボード機器を接続するためのインサートポイントを有効にします。

10 - 入力メーター

各チャンネルの7セグメントLEDメーターで入力レベルをモニタリングします。

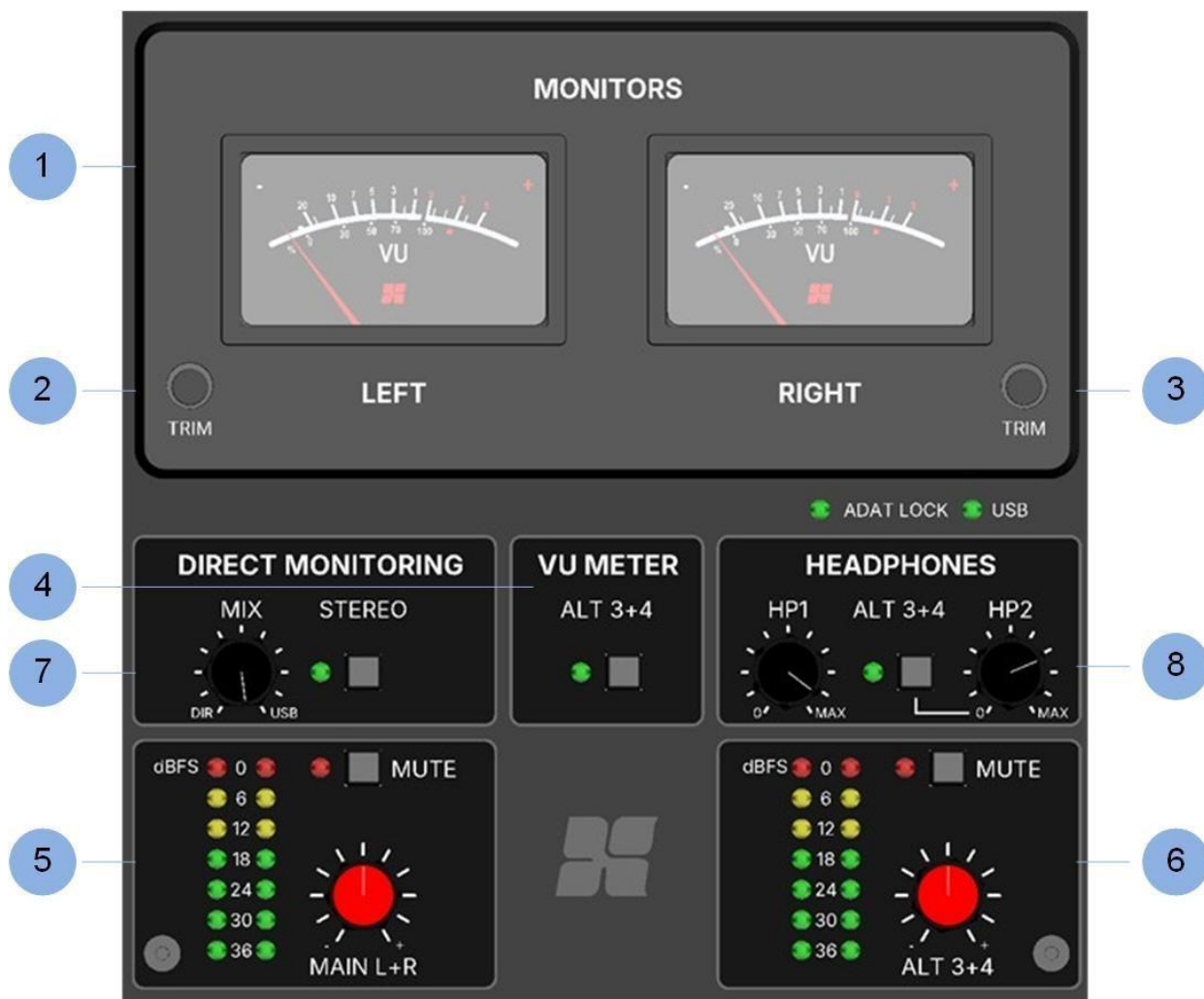
11 - H DRIVE トランスエフェクトコントロール

H-DRIVEコントロールを使用して、信号をサチュレーション状態にドライブさせます。H-DRIVEは、可変的な特性を持つトランスエフェクトです。

12 - H DRIVE オン/オフ

H-DRIVEコントロールのすぐ下にある大型の照明付きスイッチを使用して、H-DRIVEトランスエフェクトのオン/オフを切り替えます。

この大型スイッチは、アンバー色（トランスエフェクトが弱い状態）から赤色（トランスエフェクトが強い状態）へと点灯色が変わります。



1 - ステレオ・アナログVUメーター

大型のバックライト付きVUメーターを使用して、出力レベルを監視します。

2 - 左側VUメーターのトリム

出力レベルに合わせて、左側のVUメーターを調整します。

3 - 右側VUメーターのトリム

出力レベルに合わせて、右側のVUメーターをトリムします。

4 - VUメーターの選択

ALT 3+4 スイッチを選択することで、ALT 3+4出力レベルを VU メーターに送ります。

5 - MAIN L+R 出力

MAIN L+R出力をコントロールルームのスピーカーに供給します。7セグメントLEDメーターでMAIN L+Rのレベルを確認できます。付属の大きなノブでMAIN L+Rのレベルを調整し、MUTEスイッチでMAIN L+R出力をミュートします。

6 - ALT 3+4 出力

代替の3+4出力をスタジオまたはブースのスピーカーに供給します。7セグメントLEDメーターでALT 3+4のレベルを測定します。付属の大きなノブでALT 3+4のレベルを調整し、MUTEスイッチでALT 3+4の出力をミュートします。

7 - ダイレクトモニタリング

MIXノブを使用して、Flex-10のメイン出力とDAWからのリターンをブレンドして聴くことができます。

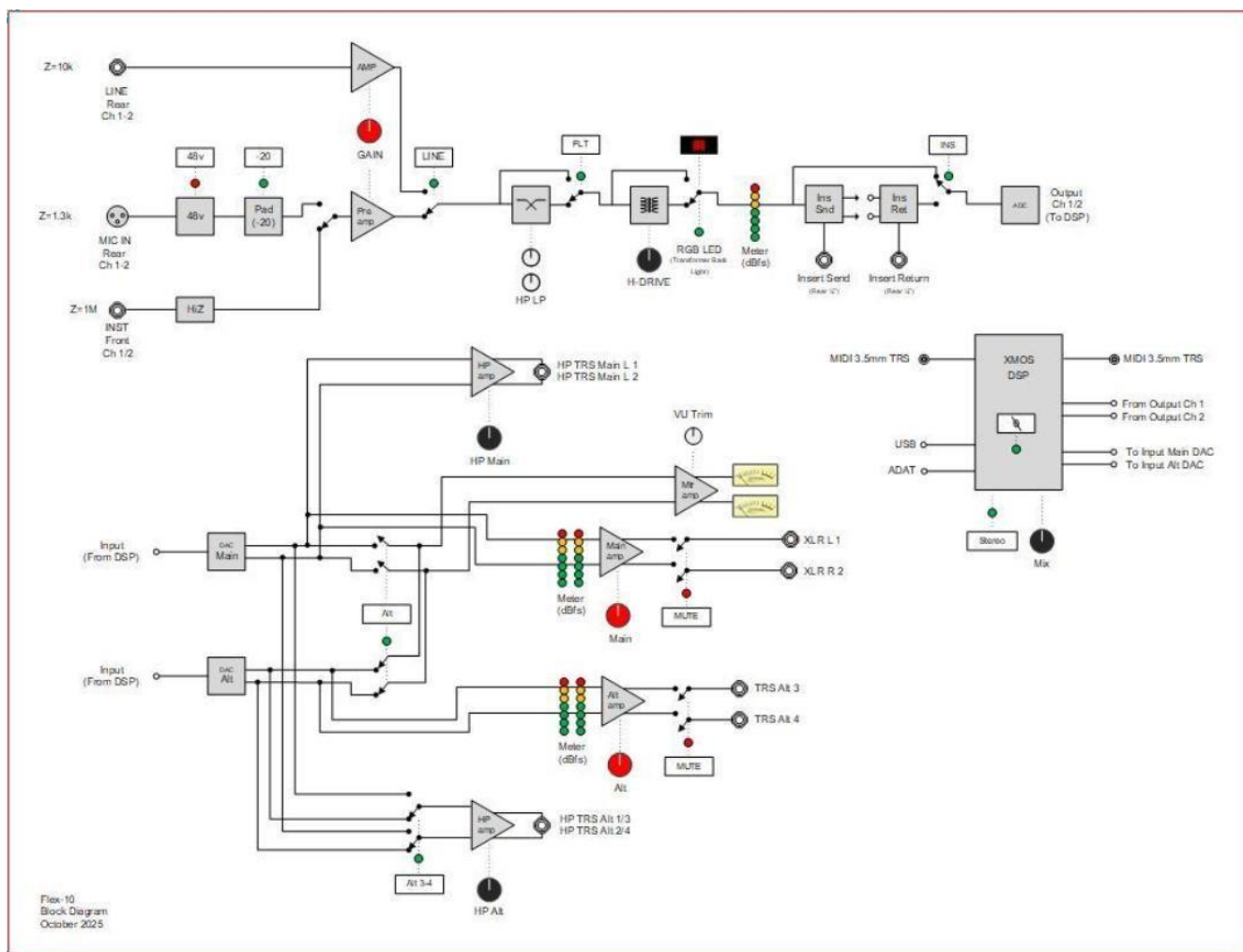
STEREOスイッチを切り替えると、ステレオ録音用途において、チャンネル1を左メイン出力のソースとして、チャンネル2を右メイン出力のソースとして選択できます。

8 - ヘッドフォン

MIXノブを使用して、Flex-10のメイン出力とDAWからのリターンをミックスした音を確認できます。HP1およびHP2ノブでHP 1とHP 2のレベルを個別に調整できます。

ALT 3+4スイッチを使用して、HP2のソースをALT 3+4に切り替えます。

ブロック図



仕様

マイク入力

- 周波数特性 $\pm 1\text{dB}$
- ダイナミックレンジ (A特性) 117.5dB
- THD+N (1kHz時) $<-102\text{dB}$
- 等価入力ノイズ (A特性、 150Ω 終端) -131dBu
- 最大入力レベル $+29.0\text{dBu}$
- ゲイン範囲 63dB
- 入力インピーダンス $1.3\text{k}\Omega$

INST入力

- 周波数特性 $\pm 0.05\text{dB}$
- ダイナミックレンジ (A特性) 11.0dB
- THD+N (1kHz時) $<-102\text{dB}$
- 最大入力レベル $+14.0\text{dBu}$
- 入力インピーダンス $1\text{M}\Omega$

ラインレベル入力

- 周波数特性 $\pm 0.05\text{dB}$
- ダイナミックレンジ (A特性) 118.0dB
- THD+N (1kHz時) $<-99\text{dB}$
- 最大入力レベル $+25.0\text{dBu}$
- ゲイン範囲 27dB
- 入力インピーダンス $14\text{k}\Omega$

バランス出力

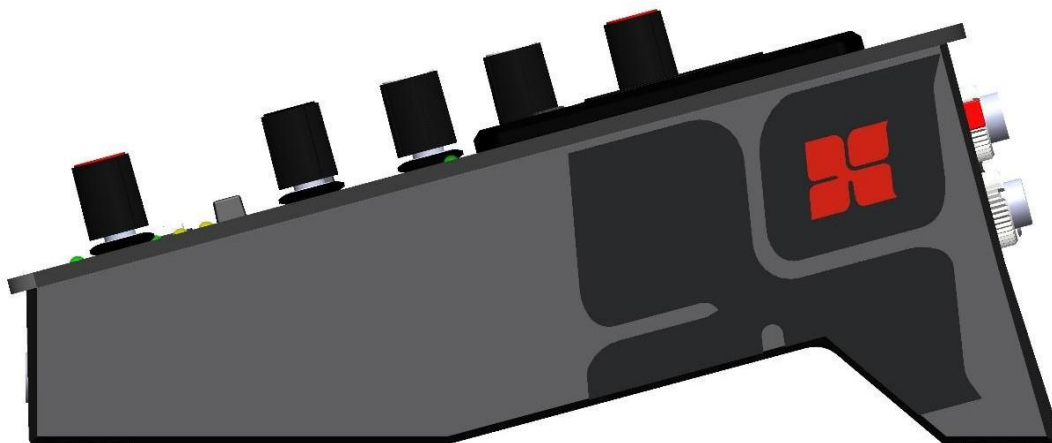
- 周波数特性 $\pm 0.04\text{dB}$
- ダイナミックレンジ (A特性) 119.5dB
- THD+N (1kHz時) $<-104\text{dB}$
- 最大出力レベル $+23.7\text{dBu}$
- 出力インピーダンス 150Ω

ヘッドホン出力

- 周波数特性 $\pm 0.03\text{dB}$
- ダイナミックレンジ (A特性) 119.0dB
- THD+N (1kHz時) $<-104\text{dB}$
- 最大出力レベル $+15.0\text{dBu}$
- 出力インピーダンス $<1\Omega$

重量および 外形寸法

- 幅 × 奥行 × 高さ : 12インチ (304.8 mm) × 7.25インチ (184.15 mm) × 3.5インチ (88.9 mm) (ノブの高さを含む)
- 重量 : 4.75ポンド (2.15 kg)
- 梱包サイズ : 16.4インチ (416.5 mm) × 9.5インチ (241.3 mm) × 4.9インチ (124.5 mm)
- 梱包重量 : 6ポンド (2.72 kg)



オーディオドライバー

Harrison Flex-10は、MacのCore Audioに対応しています（ドライバーは不要です）。

Windowsでは、Harrison Audioのウェブサイトから入手可能なHarrison USB ASIO/WDMオーディオドライバーが必要です。

Apple Macでのインストール

1. 「システム環境設定」から「サウンド」を開き、入力および出力デバイスとして「Harrison Flex-10」を選択してください（Macでの動作にはドライバーは不要です）。
2. お好みのメディアプレーヤーを開いて音楽を聴いたり、DAWを開いて音楽制作を始めてください。

Windowsでのインストール

1. Harrison Flex-10用のHarrison USB ASIO/WDMオーディオドライバーをダウンロードしてインストールしてください。
<https://atdistribution.net/brands/flex-10/>
2. 「コントロールパネル」から「サウンド設定」を開き、「再生」タブと「録音」タブの両方で、「Harrison Flex-10 USB」をデフォルトのデバイスとして選択してください。
3. Harrison USB コントロールパネルを開き、お使いの Harrison インターフェースを選択して、ASIO ドライバー（1～4）を割り当ててください。
4. DAWのオーディオ設定パネルを開き、使用しているインターフェースに適したASIOドライバーを選択してください。

Harrison USB ASIO/WDM ドライバーは、複数の ASIO インスタンスに対応しています。つまり、複数の USB デバイスで複数の ASIO アプリケーションを動作させることができ、このドライバーをマルチクライアント環境で利用可能です。

複数のASIOデバイスを使用する予定がない場合でも、ドライバーがDAWに認識される仕組みにいくつかの変更が加えられているため、USBオーディオデバイスをDAWで動作させるには、以下の手順に従う必要があります。コントロールパネル内の4つのASIOドライバーインスタンスのいずれかに、使用したいデバイスをリンクさせ、DAW内でその同じドライバーを選択する必要があります。

DAWのバッファサイズ

場合によっては、DAWのバッファサイズ設定を変更する必要があるかもしれません。バッファサイズとは、処理される前に保存／バッファリングされるサンプルの数です。バッファサイズが大きいほど、DAWが入力オーディオを処理する時間が長くなり、バッファサイズが小さいほど、DAWが入力オーディオを処理する時間は短くなります。

一般的に、ある楽曲の制作をしばらく続けていて、複数のトラックが積み上がり、その多くにエフェクトプラグインが適用されている場合は、バッファサイズを大きくする（256サンプル以上）ことが望ましいです。

バッファサイズを増やす必要があるかどうかは、DAWが再生エラーメッセージを表示して再生できなくなったり、予期せぬポップノイズやクリックノイズを伴って音声再生されたりすることでわかります。

バッファサイズを小さくする（16、32、64サンプル）のは、DAWから処理済みのオーディオを可能な限り低レイテンシーで録音・モニタリングしたい場合に適しています。例えば、エレキギターをHarrison Flex-10に直接接続し、ギターアンプシミュレータープラグイン（Native InstrumentsのGuitar Rig Playerなど）を通した後、録音中にその「エフェクトがかかった」サウンドをモニタリングしたい場合です。

単に「ドライ」な入力信号を聴くのではなく、その「エフェクトがかかった」音をモニタリングしたい場合です。

サンプルレート

サンプルレートとは何ですか？

Harrison Flex-10 USBオーディオインターフェースに入力・出力されるすべての音楽信号は、アナログとデジタル間で変換される必要があります。サンプリングレートとは、変換時のサンプル数の指標です。

DAWのデフォルトで最も一般的に使用されるサンプリングレートは44.1 kHzです。これは、アナログ信号が1秒間に44,100回サンプリングされることを意味します。Flex10は、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHzを含む、すべての主要なサンプリングレートに対応しています。

サンプルレートを変更する必要はありますか？

より高いサンプリングレートを使用することの利点と欠点は、このユーザーガイドの範囲を超えますが、一般的に、最も一般的なサンプルレートである 44.1 kHz および 48 kHz は、今でも多くの人が音楽制作に選択しているレートであるため、まずはこれらから始めるのが最適です。

作業時のサンプリングレートを（例えば 96 kHz などに）引き上げることを検討すべき理由の一つは、システムによって生じる全体的なレイテンシーが低減されることです。これは、DAW を通じてギターアンプシミュレーターのプラグインや多数のバーチャルインストゥルメントをモニターする必要がある場合に便利です。ただし、高いサンプリングレートで録音すると、コンピュータに記録されるデータ量が増えるため、プロジェクトの「オーディオファイル」フォルダが占めるハードドライブの容量が大幅に増加することになります。

サンプルレートはどのように変更すればよいですか？

これはDAWで行います。DAWによっては、セッション作成後にサンプルレートを変更できるものもあります（例えばAbleton Live Liteなど）。一方、Pro Toolsのように、セッション作成時にサンプルレートを設定する必要があるものもあります。

安全に関する注意事項

- この文書をよくお読みになり、保管しておき、すべての警告および指示に従ってください。
 - この電気機器は、ほこり、水、その他の液体にさらさないでください。
 - 乾いた布、または電気機器用の洗剤のみを使用して清掃してください。また、本機の電源が入っている状態での清掃は絶対に避けてください。
 - 熱源の近く、直射日光の当たる場所、または裸火の近くでは使用しないでください。
 - **本機の電源を切る際には必ず先にスピーカーの電源を落とし、ヘッドフォンを取り外してください。**
 - 本機の上に重い物を置かないでください。
 - メーカーが推奨するアタッチメントや付属品のみを使用してください。
 - 雷雨の時や、長期間使用しない場合は、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - 本機を改造しないでください。改造は、性能、安全性、および/または国際的な適合基準に影響を与える可能性があります。
 - 本機の修理は資格のある担当者のみが実施できます。本機が水にさらされた場合、落下させた場合、または正常に動作しなくなった場合は、直ちに修理を依頼してください。
 - ユーザーが行ったメンテナンスや修理、改造及び上記の注意事項に反する行為に起因する故障については周辺機器を含め補償しません。
 - 本製品には御購入から1年間の保証が付帯します。初期不良等、故障の際には御購入された販売店様にお問い合わせください。
 - Harrison は、無資格者によるメンテナンス、修理、または改造によって生じた損害について、一切の責任を負いません。
 - 本機器を使用する際は、安定した水平な場所に設置してください。
 - 通気口を塞がないでください。製造元の指示に従って設置してください。冷却のために、本機の周囲には常に空気が自由に流れるようにしてください。
 - 本装置に接続されているケーブルに負担がかからないようにしてください。また、これらのケーブルが踏まれたり、引っ張られたり、つまずきの原因になったりしない場所に配置してください。
 - 警告：聴覚を守るために、大音量で長時間の使用は避けてください。
- ヘッドフォンを使用していても周囲の音や自分の声が聞こえる程度の音量で使用してください。

電源の安全性

- 本機器には電源コードが付属していますが、お好みの電源ケーブルを使用する場合は、以下の情報をご参照ください。
- 本体の背面にある定格ラベルを参照し、必ず適切な電源コードを使用してください。
- 本機は必ずアース接続してください。
- 規格に準拠した 60320 C13 タイプのソケットを使用してください。電源コンセントに接続する際は、現地の電気要件に合わせて適切なサイズの導体およびプラグを使用してください。
- コードの最大長は4.5m（15フィート）にしてください。
- コードには、使用国の承認マークが記載されている必要があります。

さらに：

- 本製品のカプラーは遮断装置として機能するため、障害物のない壁のコンセントに接続されていることを確認してください。
- 保護接地（PE）導体が備わっている交流電源にのみ接続してください。
- 本機は、中性線が接地電位にある単相電源にのみ接続してください。



ATTENTION! This product must always be earthed.

CAUTION! No user-serviceable parts inside. In the event of damage to the unit contact Solid State Logic. Service or repair must be done by qualified service personnel only.



This product complies with the following United Kingdom Legislation:

UK Electrical Equipment (Safety) Regulations 2016 (SI 2016/1101)

UK Electromagnetic Compatibility Regulations 2016 (SI 2016/1091).

The Eco-design requirements for Energy related products (ErP) 2009/125/EC.

The Restriction of the use of certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment (RoHS2) Regulations 2012 (SI 2012/3032).



This product complies with the following European Union Harmonisation Legislation:

EU Low Voltage directive (LVD) 2014/35/EU,

EU Electromagnetic Compatibility directive (EMC) 2014/30/EU.

The Eco-design requirements for Energy related products (ErP) 2009/125/EC.

The Restriction of the use of certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Directive (RoHS2) 2011/65/EU.



Instructions for disposal of WEEE by users in the European Union

The symbol shown here, which is on the product or on its packaging, indicates that this product must not be disposed of with other waste. Instead, it is the user's responsibility to dispose of their waste equipment by handing it over to a designated collection point for recycling of waste electrical and electronic equipment. The separate collection and recycling of your waste equipment at the time of disposal will help to conserve natural resources and ensure that it is recycled in a manner that protects human health and the environment. For more information about where you can drop off your waste equipment for recycling, please contact your local city office, your household waste disposal service or where you purchased the product.

FCC認証

本機器は、FCC規則第15部の規定に基づき、クラスBデジタル機器の制限値に準拠していることが試験により確認されています。これらの制限値は、住宅環境における有害な干渉から合理的な保護を提供するように設計されています。本機器は無線周波数エネルギーを発生、使用、および放射するものであり、指示に従って設置・使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置環境において干渉が発生しないという保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合（本機器の電源をオフにしてからオンにすることで確認できます）、ユーザーは以下の対策のいずれか、または複数を試して干渉を解消することをお勧めします：

- 受信アンテナの向きを変えるか、設置場所を変更する。
- 本機器と受信機との距離を離す。
- 本機器を、受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに接続する。
- 販売店または経験豊富なラジオ・テレビ技術者に相談してください。

電磁両立性

BS EN 55032:2015、クラス A。BS EN 55035:2017。

警告：オーディオ入出力ポートはシールドケーブル用ポートであり、ケーブルのシールドと本機との間で低インピーダンスの接続を確保するため、これらのポートへの接続には、編組シールドケーブルおよび金属製のコネクタシェルを使用してください。

電氣的安全性

IEC 62368-1:2018
BS EN IEC 62368-1:2020+A11:2020
CSA CAN/CSA-C22.2 No.62368-1 3rd Ed.
UL 62368-1 3rd Ed.

環境

温度：動作時：+1～30℃。

保管温度：-20～50℃。

詳細情報

詳細情報、マニュアル等のダウンロード、ナレッジベース、およびテクニカルサポートについては、www.harrisonaudio.com をご覧ください。

トラブルシューティングとFAQ

ATdistributionのウェブサイト<https://atdistribution.net/brand/harrisonaudio/> に、よくある質問とその他のサポート情報が掲載されています。

環境方針

梱包材には、最低でも 80% の再生段ボールが使用されます。梱包材は 100% リサイクル可能です。

梱包材には発泡スチロールは一切使用しません。代わりに、パルプベースの梱包材を使用します。

梱包は体積と重量を削減するよう最適化され、梱包材はリサイクルのために簡単に分別できるようになります。

ユーザーマニュアルはダウンロード専用とします。必須の安全情報のみを紙媒体で提供します。

フロントパネルの設計には、80%の消費後リサイクルアルミニウムを使用します。

製品のカーボンフットプリントに大きく寄与するプリント基板（PCB）については、基板面積と層数を最小限に抑え、廃棄物を削減するよう最適化します。

設計全体を通じて、低消費電力動作に重点を置きます。

本製品の構造は、分解が容易な設計となっており、製品が寿命に達した際に主要部品を分離してリサイクルできるようになっています。

Harrison Audio 製品 輸入代理店

ATdistribution

ソリッドステートロジックジャパン株式会社
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14

